

馬場小室山遺跡フォーラム第 93 回ワークショップ

20190120

埼玉県における「弥生時代」の所謂再葬墓について

1. 主な遺跡

前組羽根倉遺跡・上敷免遺跡・横間栗遺跡・須釜遺跡・飯塚南遺跡・飯塚北遺跡・三ヶ尻上古遺跡・四十坂遺跡・下阿久平遺跡など

遺跡の特性からか、不時発見が多く、出土状態が明らかな遺跡が少ない。土器の組み合わせや出土状況が検討できる遺跡は少ない。県内では前組羽根倉遺跡・横間栗遺跡・須釜遺跡・四十坂遺跡・飯塚南遺跡が比較的出土状況が判明している。

2. 編年

沖Ⅱ式（前期末）→岩櫃山式→平沢式→出流原式→池上式

3. 再葬墓土器出土パターン

I 型 直立単独型

前期末からみられる。前期のものは所謂在地型突帯文壺を単独正位に直立させる。

II 型 単独横倒型

横倒あるいは斜位に設置される。

III 型 複数直立型

底部の高さがほぼ同じものと底部の高さが異なるものが認められる。

IV 型 ドミノ倒し型

複数個体の壺を横たえるように納めている。時に弧状になる場合もある。

V 型 複数横倒型

複数が乱雑に横倒になる。

VI 型 直立＋横倒型

直立と横倒がセットになる。

VII 型 密接正位・逆位入り乱れ型

複数器種が密接して配置される。